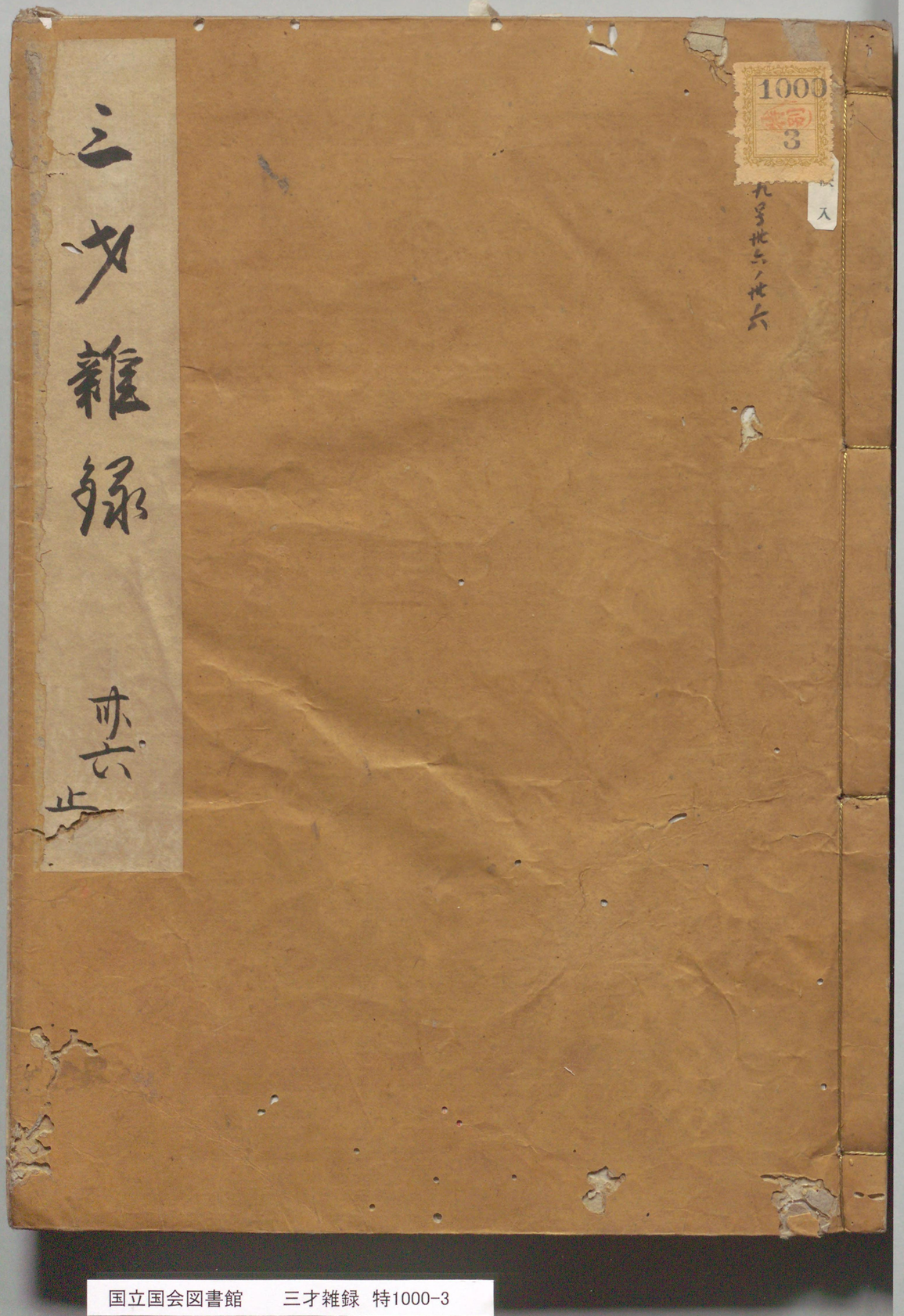


国立国会図書館　三才雜録 特1000-3

ガラス使用

特1000-3

雜録廿三

姓氏辨

平高尚著

姓氏ノ事サマ〳〵ニ申スト人アレド必竟ハ姓ハカバネ氏ハウヂト覚テスムベシ姓ハ天武天皇紀ニ十三年己卯朔ノ詔ニ八色姓ヲ仏ル所謂朝臣真人以下也同日ニ守山公以下十三氏ニ姓ヲ真人ト賜フトアリ是カバネ子也弘仁ノ頃萬多親王姓氏録ノ表ニ一千一百八十二氏ヲ集ムト云者是ウヂノ子也是ニテ明テカニ知レ

朽木文庫
龜田文庫

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3

ガラス使用

タリ姓氏録ト云名目モ姓ト氏トヲ記シタル
書ナレハ如此名ツケラレシナリ尤姓モウチト
讀氏ノ字モアト通メカハ子ナレ氏別テ云
時ハ姓ハカハ子ニテ朝臣真人ノ類氏ハウチ
ニテ源平藤橘ノ類ナリ後世ニモ源朝臣
ノ姓ヲ賜フ橘朝臣ノ姓ヲ賜フトアルモカハ
子ヲ重ニスル也源平ノ氏斗リヲ賜フトハ
ナシ貝原子カ姓トハ源平藤橘ノ類氏ト
ハ新田足利ノ類ト書シハ無稽ノ言也此
妄言出テヨリ今ノ苗字ト云ヲ氏ト覚ヘ

林本文庫

タル人在今ノ苗字ト云者ハ大率保元平治
ノ頃ヨリ盛ニ起レリ是多クハ地名ニテ假名ト
モ俗ニ云モノ也 堊ニテハ氏ヲ族トモ云欤氏族排匂ト云書モミヘタリ 今ノ人ノ
云所ハ古今ノ称ヲ別タヌ雅俗ヲ取交ヘ剰
ヘ和漢ヲ附會スル故ニ混淆錯乱シテ姓氏ノ
ヿ詳ナラス尾源氏トカクハ宜シ源姓ト云ハ
不當源朝臣姓ト云ハ當レリ又源家平家
ト云ハ猶スマヌ也上古染殿枇杷殿ナト称
セシヲ今ノ苗字ノ事ト云人モ有又ハ殿ハ
今ノ呼名ノ殿ト云人有共不當殿ハ殿舎ノ

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

謂也今近衛殿一條殿ナト云モ同呼名ノ殿ハ中古以来ノ事也タトヘハ

織田（上）總介平朝臣信長
（假名 地名）（官）（氏）（姓）（名）

如此覚ヘタルカ宜シ吾邦ニテ字（アザナ）ト云ハ常ノ呼名ノ事也台記玉海ナトニテ今世少々学問ニテモ為タル人唐風ノ字ヲ称ス又日本風ノ呼名モアリコレ字ヲ二ツ用ル也可笑又古ハ平氏ノ蔵人ナル人ヲ略シテ平蔵ト云源氏ニテ左ヱ門尉タル人ヲ略シテ源左ヱ門ト云タリソレモ後世ハ妄リニナリト下レル世ノサマ歎セサラン哉

安永三年孟冬　平高尚艸

菟（ツ）藝（ギ）泥（子）赴（フ）ニ年中行事ヲ引テ栂尾ハ宇治ヨリ以前ノ茶ノ名誉アリ日本ニ茶ヲ用ルヿハ明恵上人ヨリ以前ノヿ也季ノ御讀經者天平六年ニ始ラレテ貞觀ノ比毎季ニ行ハレシニ第二日ニ引茶トテ僧ニ茶

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

ヲ賜フヿアリト此説ノ如クニテ吾国ヘ茶ノ
渡リタリシハ久シキ事ニテ木綿ノ種ノ如
ク中絶シテ又後渡レリト見ヘタリ海人藻
苡ニモ茶ハ上古ヨリ我朝ニアリ葉上僧正入
唐ノ時重テ茶ノ種ヲ被渡栂尾上人翫
之トアレハ再ヒ渡リタルヿ明カ也

公私雑翰ニ琉球国ヘノ返簡ヲノス其文
如左

又ゟ見しくアんやゟちれ上の拘多
しかにうけとりまゐぬめてゐくゟ
永享十一年　御印判

其頃ハ外國ヘノ返書モ国字ニテアリト見
ヘオモシロキヿ也扨御印判トアルハ義教公
ナルヘシ

布衣記ニ云馬ノ時僮僕者事衛府ノ時ハ
童一人郎徒二人調度掛一人舎人三人中
間六人其儀ハ時ニ從ヒイヘノ若黨中間跡ニ
上下著召具ストアリ上下ノ名久シキヿ也

布衣記ハ伏見院永仁三年ニカケル書也

国立国会図書館　三才雑録 特1000-3
ガラス使用

親基日記云六月廿八日琉球人叅洛号
長吏於御寢殿庭前三人掛御日庭
二鋪席其項八拜謁ノ式見ルヘシ

群書類從惣目録

内 神祇部七十種
神風抄　古老口実傳　賀茂祭繪詞
春日驗記　兩聖記　梅城録
帝王部三十六種
内 皇代記　庭槐抄　皇帝紀抄
補任部廿七種

内 摂関補任次第　藏人補任
樂所補任　将軍執権次第
関東評定傳　類聚大補任
系譜部二十種
内 小野氏
傳部廿一種　官職部八種
律令部六種
内 律疏　律裏書
公事部五十五種　裝束部廿二種
文筆部三十四種　消息部廿一種

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

内 貴嶺問荅
和歌部四百十種 日記部八種
内 連謌部九種 物語部廿種
内 鳥部山物語
紀行部三十九種 無名艸紙
蹴鞠部八種 管絃部廿二種
遊戯部十七種 鷹部十種
飲食部十三種
内 合戦部六十三種
内 絶交追討記 鷹仁記
豊鏡 繁列四家記

深谷記
江濃記
しノハノ記
小松記
未来記
中国治乱記
内 武家部七十七種
貞永式目追加
釈家部七十九種
雑部百七十八種

鹿島治乱記
舩田物記
トヤシ記
笠山太戦記
赤松再興記
建武式目追加

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

内大鏡裏書　康平記
盪觴抄　紹運要畧
歴名土代
惣計千二百七十三種
六百三十五冊
塙撿校集

○五條為守未子　嘉吉頃
妙本　本妙
妙大　妙秀

妙壽　本光
光心
光利
二
光二
光悦　行年八十余
墓有京鷹峯大虚山光悦寺了寂院光悦日豫

光瑳
光甫　行年八十余
墓祖父同所空中院日諦

光傳
光通
十人扶持

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

次郎左衛門

三

光意　光祐

光作　光茂

光理　光柳

九郎左衛門　五十石十五人扶持

光刻子

光徳　光室

光味　光伯

光因　光察

光伯　百石十五人扶持

光円　光珠

光龍　光碩

光珉　光積

左兵衛　五人扶持

光温

二

光的　光怡

市郎兵衛　市三郎　百石廿人扶持

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3

ガラス使用

三
光由　光知
市之丞　百石十五人扶持
四
光龍　光林
光竹　藤右衛門
百石十二人扶持
光達　病身不得家督
光円　断絶
光澄　断絶

光常
光順　六郎右衛門
二百俵

三郎兵衛　三郎兵衛
四郎兵衛　二百五石五十人扶持
十人扶持

明珍
肥後守宗吉子

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3

ガラス使用

宗从

宗清

宗良 古中 吉清 平内

宗秀 左内 吉次 平太郎

宗恭

宗行

宗直 大角

宗益 宗重

宗兼 右平太

宗隅 左平太

宗忠

重家 求馬

吉重 加太郎

宗縄

宗義 對馬

国立国会図書館　三才雑録 特1000-3

ガラス使用

宗光 宗政
宗則 多宮
宗安 義弘
宗時 民部
義紀 義則
義長
高義 式部

義有
義久 又八 成国 千二郎
義保
義通 左近 大永享禄
住一條堀河後常列 府中又移上列
高義 數馬
勝義 新大夫同比 府中住
勝正 五郎兵衛 天文
上列白井後小幡

国立国会図書館 三才雑録 特1000-3
ガラス使用

信家
信房 新五郎 天文 甲府住
勝家 弥四郎 千大夫 小幡住
信康
房家 判四郎 天文 白井住
貞家
氏家 乙郎大夫 天文 甲府
宗家
宗信

宗清 増右衛門
宗長 但馬
宗秀 備後
宗利 阪邦道
春信 木工助
宗双 武部大隅
明珍家弟子系図ノ内血脉ノ系見之分左ニ出
但此分明珍同姓歟他姓歟未知之猪可尋之

国立国会図書館 三才雑録 特1000-3
ガラス使用

房宗　判太夫　又八郎　永禄比住小田原信房弟子

家房　又五郎　天文比後移上列信家弟子

吉久 ― 信吉　九八郎　天文　小田原住同弟子

信廣　又七郎　永禄比

成國　平大夫　天文比　相列　サカハ住

成重　蓬莱又五郎　永禄上列八幡住 ― 房重　又四郎　雪下住　信廣弟子

成近　八郎　住白井

憲重　又六郎　永禄比 ― 國重　九郎　白井住 ― 重則　又市郎　白井住

宗則　喜古　七郎太夫　勝義弟子

宗義　喜内　白井 ― 宗時　三郎　一条堀川

宗久

吉久　又三郎　天文比　太田原住後列

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3

ガラス使用

久吉 平角 天正大田原

吉道 吉平 永禄 岩城 義家 左近次同

國久 久家 儔七郎 慶長 雪下住

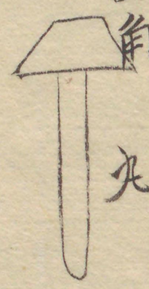
政家 左太郎 慶長同

家 貞行 万二郎 天文 相州大島

以上八家血脈也

寛政九年丁巳正月朔日清ノ乾隆帝
讓位嘉慶ト改元ノ由在位六十年八十
九才ト云

一鎌倉鶴岡八幡ノ座不冷所ノ著到ノ軸ニ
福徳二年正月一日ト彫テ其文左ノ如シ同
所光明寺ニモ祈祷ノ額ノ裏ニ福徳ノ年
号有テ
後土御門院ノ勅筆ト云



著到ノ軸

国立国会図書館 三才雑録 特1000-3
ガラス使用

聖觀音供
不動供
福徳二年正月一日
吾國福徳ノ年号ナケレ𪜈後土御門院ノ
勅筆ト云ハ福徳ノ年号シハラク用ヒラレ
改元アリタレ𪜈應仁兵亂ノ時故史官失
シテ書セサルニヤ

一 萬治元年下總国布川村川論繪圖ノ裏
書ニ金一両二分京錢二百五十文トアレハ関
東ニテ此比マテ京錢ト云ト見ヘタリ

一 近年琉球ヨリ来ルキリンカクト云草。中ハ
傳信録ニアリ其文如左
吉古羅一名火鳳。人家牆上多植之。以辟
火。幹似覇王鞭草。葉似鎮火艸。花似黄
菊。亦有紅者。名福禄木

一 太閤朝鮮ヲ伐レシ時七歳ノ児ヲ虜ニシテ
連的リシニ其児七言絶句ノ詩ヲ作リケレハ
ソレニ感シテ其児ヲカヘサルト云傳フ
夢裏分明歸故郷。雙親向我問扶
桑。華鯨樓上一聲曉。欹枕猶疑

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

在大唐。
大明ノ兒ト見タリ
一由木左衛門ノ書ニテ見レハ古ハ秤ニ京目
由舍目アルヿ明也其文如左
天正六年戊寅三月拾七日北條陸奥守平氏照内
由木左衛門尉景盛
拜遣高野山龍光院之内宗忍坊
二親為成佛高野山月牌奉納之但黄

金貳兩京目
国宗刀長二尺三寸
サテ天正ノ比大判アリト見ユレ𪜈小判ナキ
ニヤ金一兩ハ十匁ナルヘキカ
一九暦ニ云天徳年三月廿八日可新銭
鋳進數并鉛宣申者而依公卿之参不能
定奉トコレニテミレハ天徳ニ鉛銭鋳ラレシニヤ
一世諺問答ニムカシハ一町ノ内ヲ五丈ツヽニワリテ
門ヲ立シカハ八ノ門ヤリシ也其中ニ賤カ家ヲ
ワクルトアリコレニテ吾國古ハ閤門アリシヿ

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

知ヘシ

一源平盛衰記ニ小児ノ百詠ヲヨムトアルハ唐ノ李嶠カ雜詠百首ノヿニテ註ニアリテ今ノ庭訓ノ如クハヤリシ也

一近年流行スル脚気腫満我国ノ古ニモアリシニヤ東鑑ニアリ

入道従四位下行近江守平朝臣朝時卒法名生五十三數月悩脚気痕病等云々

一越後畧記ニ蒲原郡妻有郷アリ太平記ノツハリナルヘシ

一俗ニ何時ト云ヿヲイツ時分ト云モ西土ニヨレニヤ無寃録ニ時分猶言時

一橋塲ノ法源寺ニ古碑アリ其中ノ大同元年ノ碑ニ砂尾石濱道塲トアリ今砂尾山不動院橋塲寺ト云アレハ古ノ砂尾石濱ハ橋塲ナルヿ疑ナシ其外天長仁寿齊衡昌泰文永正応正安嘉元徳治延慶等ノ碑アリ

按ニ牌石ニハ非ス古ノ墓誌ナルヘシ法源寺昔ハ保元寺ト云シ后ニ改メシトナリサレハ古キ寺人旦右ノ碑モ元禄八年ニ再興セシ也裏ニ其文アリ

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

一上野国群馬郡代(マヱ)墨(スミ)村ハ黛ノ一字ヲ二字トナシ黒ヲスミトヨミカタキ故土ヲ加ヘタルヘシ三列ノ山高(スヤマ)山村モ元嵩山村トカキタレ圧後ニ山高ノ字二字ト成タリ畠山ノ畠ハ白田ノ二字一字ト成タルヘ白田ハ畑ノヿ也

一江列野列郡田中村ノ名主田中源兵衛カ家ニ十二時蓮アリ白蓮ト云一房トニ五六花アリ

一武列ニ不入斗村アリ古老云古ヘ村トナスニ不足地ヲ不入計ト云後村トナリテ不入計(イリヤマス)村ト云村數ニ入レカソヘスト云ヿニテ草字

斗ヲ斗ト誤リテ不入斗トヨミアヤマルト冊説ノ如クナルヘシ

一和名抄ニ國々ノ御ヲノセテ一郡三郷ヨリ一郡廿四郷ナルアリ按ニ延喜ノ別一郡千戸ニ過サルハ戸多キ郷ハ三郷ニテ千戸アリ戸少キ郷ハ廿四郷ニテ千戸アル故ナルヘシ后世ハ一郡ノ戸數ノ定ナリ郷村ノロカチナキユヘ村數多クナリタルトミヱ

一或人東山殿ノ書也ナテ示ス其文左ノ如シ按ニ今ニ今云御内書ナルヘシ

国立国会図書館　三才雑録 特1000-3
ガラス使用

近江國補化礼太刀一腰百疋至
来ゆて尤非ぬし也
八月五日　花押
青木武蔵守　きのへ
右昆陽漫録
軍陣聞書　永正八年八木若狭守忠勝記ス
騎射秘抄　小笠原持長
多賀高忠聞書
大追物聞書　小笠原文長

諸書當用抄　同
歩立躰拜記　永正二年二月五日
流鏑馬次第　小笠原持長永享八年八月
岡本記　岡本美乃守縁侍ノ記
法要録抄　弓ノ書
的出張記　永録六年伊勢六郎左衛貞久
隨兵日記　元長
武具要説　高坂昌信天正五年

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

扶桑覚聞私記

享保年中加藤仙菴初名ハ須磨不音ト云娘人者ノ偽作也初大江廣元日記ト云シヲ毛利家ヨリ咎テレテ改名シタリ盛長日記モ同偽作

鎌倉年中行事ニ云フ大服有テ御一字ヲ被申時ハ三献有御一字ヲ被下様ハ折紙ニ名乗斗被遊テ御酒ヨリ前ニ公方ニ様有御直ニ被下也参リ給テ三度頂戴仕テ後懐ニ入テ其後御酒ヲ被下也正月元服ノ方ニ有之令記録者也トコレヨリ一字ヲ玉フノ武ミルヘシサテ様ノ字ヲ用ルモコノ比ヨリトミユ

一 紀談録曰有爵者宜称塚無爵者称墓有爵及尊貴者称公無爵者咸称君トレ墓誌ヲ作ルモノ知ヘキヿ之

一 日本紀大化二年畿内東自名墾横河以来南自紀伊兄山以来西自赤石櫛渕以来北自近江狭々波合坂山以来為畿内国トアリテ或云狭々波ハ滋賀ノ一名也按ニ名墾ハ伊賀国名張郡赤石ハ播磨国明石郡ニシテ合坂山滋賀郡ナレハ或説宜シカルヘシ

一 多胡郡碑田夫云傳ルハ上野国多胡郡下池

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

村ノ碑ハ小幡羊太夫勝宗ノ墓碑也ト按ニ
姓名録抄ニ小幡氏ミヘサレハ和銅ノ時小幡氏ア
ルヘカラス続日本紀ニ慶雲和銅ノ比従四位下
布勢朝臣耳麻呂為左京大夫正五位下猪
名真人名前為右京大夫又摂津大夫ホアリ
テ羊大夫ノ如キ大夫ナシ勝宗和銅ノ時ノ人
名ニ似ス羊ハ其ノ人ノ名ニシテ小幡勝宗ハ羊
ノ後裔ナルヘシ

一 鎌倉年中行事ニ引付ノ衆ト云ハ評定衆ノ
下司ヲ云也ト今ノ与力ナトノ類ナルヘシ

一 類聚国史百十一巻大中臣安則奥書アリ。

釈奠者權輿スル
仁徳天皇欤其製法凡出傳王仁者也然
前代未全備故
先朝
今上度ニ有酎酌漸得全コレニテミレハ釈
奠ノ始リ久キヿナリ

一 大坂辺ニテ魚ヲイロイ商フヲ五十集(イソバ)ト云之
或云今ハイサバト云ト案ニ論語曰加我数
年五十以学易可以無大過矣朱註卒
与五十字相似而誤分也ト五十集モ元

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

来卒集ニテ盡ク魚ヲ集ムト云フナルヲ誤テ五十集トナリタルヘシ越後ニテハ四十集トカイテアヘモノトヨム五十集ヲ轉メ四十集（アヘモノ）トヨム五十集ヲ轉メ四十集（アヘモノ）トカクナルヘシ

右昆陽漫附録

貢職

古ハ民ニ租庸調ノ三ツアリ租ハ年貢ナリ古ノ年貢ハミナ束テ積ル之一段ノ田ヨリ稲五十束刈ル其内二束二把年貢ニ上ル米ニシテハ五十束ハ二石五斗也其内一斗一升ノ年貢ナリ然ハ二十五分強也文武天皇ノ慶雲三年又ユレヲ減メ一町ニテ十五束ツヽ年貢ニトラル米ニシテ七升五合也然レハ三十分一ヨリ軽シ太平記大全ニ世鏡抄ヲ引テ二十分一ノ年貢ノスコレハ其後ノヿナルヘシ鎌倉ノ時ニハ庄毎ニ地頭ヲオイテ年貢ノ外ニ段別兵粮ヲトラル室町ノ時ニハ段銭ト云テカケラル戦国ノ末ニナリテ貫ト云ヿアリ凡一貫ノ地ハ三反ニテ九百歩之コノ地ヨリ米十五俵イツル其内六俵年貢トスコレ拾分四ノ積リナレハ今ノ四ツモノナリ之百年以来石ニテ定メラルレ𪜈十四ノ税ハ同シヿ之

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

右但馬考

一享保元佐々木玄信ト云亡旨人有テ諸家ノ系圖ヲ妄作シ侍ル其頃二ツ山弥三郎ト云儒者玄信ニ申シケルハ予カ妻ハ先祖無水氏ニテ伊勢ノ国司ニ仕ヘシ者ト計云傳ヘテ其事跡一向ニ相知レズモシ何ソニ見當リハナキヤト尋子ケレハ玄信答ヘテ云中興亜水河内守弘信ト云人アリテ後醍醐帝ニ奉仕シ四書ノ新注ナト奏上セシ一アリ長済州ト云モノニ委細ニ載タリヨシテ聞セ侍ラントテ書ニ向テ讀カ如ク始終暗讀シケレハ二ツ山大ニ感心シテ今一篇ヨミタマヘ隼書シ侍ラントテ写シトリヌ京都藤井懶斎諫爭録述作ノ時二ツ山ヨリ長済州ヨカリテ書入タリ會津ノ長井定宗本朝通記ニカキノセ其外跡部光海南山編年録寺島良庵和漢三才圖會等ニ亜水事マカキノセタリ亜水河内守ト云モノ正史野史ニモ曽テナキモノニ玄信カ一時ノ虚説ヨリ諸書ニノセテ其人アルヤウニ成タリマコトニ可嘆ヿ也

古田夏繁高説

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3

ガラス使用

十一左国

一谷重三郎大神重遠著述書

神代巻鹽土傳　俗説贅辨

保建大記打聞　土左國或社考

中臣拔鹽土傳　王臣傳論

秦山集

二代丹三郎垣守

三代丹内真潮

一御旗本ニ乾亢之丞ト云人アリ義經ノ末ナリト云傳フ武家評林系圖ニ義經一男子アリ母ハ乾氏トアリコレラノ末ニヤ才ホツカナシ

地志大概　大久保家藏

一飛弾記　洛海地志

一参州地理志　同古跡集

一下總志　讃州記

一吉備の地理　勢陽雜記

一隠岐国視聴合記　同名所記

一伊木温故　新峯相記

一豊前國諸社録

一越後国浦佐村年中記

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3

ガラス使用

一橘南谿子ト云医師東遊記西遊記ヲ作ル
諸國ノ名所古跡ノ記ス印版ニアリ

右ノ内

一朱谷ハ津軽ノ外カ濱平館ト云所ニアリ

一化石谷ハ越前大野領山中ニ有波村ト
云所ニ何ニテモ石ニ化スル谷アリ

一同国府中ノ南二里ニ粟田部ト云所アリ
此所ニ粟生寺ト云アリ蜘寺内ノ竹ヲ本
ル事アリニ半ハ蜂ニ化シタリ

一十府ノ里ハ仙臺ノ地一二里ノ所ナリ

一奥羽觀跡聞老志ト云書二十巻計アリ
兩國ノ名所古跡古事等ヲ記セリ享保
ノ頃佐久間洞巌ト云人ノ作也其子ハ荒井
彦四郎ト云仙臺ノ儒也

一中江子右衛門ハ江列大溝ノ百姓ヨリ下民
ヲ導ケリ諦原字惟命号顧軒藤樹
先生ト云慶安元年戊子八月廿五日死玉
林寺ニ葬

一伊達正宗上洛ノ時
国詞ニテ
禁庭ニテヨメル歌

国立国会図書館　三才雑録 特1000-3

ガラス使用

あらし吹赤き月のすゑは出けて
いつこの雲にのたしこましん

清衡　大治元丙午七月十七日死
基衡　保元二丁丑三月十九日死
秀衡　文治三丁未十二月廿八日死
同十月　廿九日九十二

一朱谷ハ津軽ノ外ケ濱平館ト云所ニアリ
一東ノ壷ノ碑ハ多賀城ヨリ七八十里斗東
北ノ方南部ノ野辺地ノ近在ニ壷村ト云
所アリ其村ニ壷山ト云アリ村民其碑ヲ
尊信シ社ヲ建氏神トシテミタリニ開クヿ
ナシ碑面ニ文字アリ上ノ方ニ大字ニ東ト
云字アリ其文ハイカナルカ不知
扶木集ニ清輔
石ぶみやつかろのおちにありときく
えそ世中をおもひはなれぬ
山家集ニ
みちのくはおくゆかしくもおもほゆる
壷の石ふみ外の濱風トアルモ東ノ

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

碑ナルヘシ

一錦木ノ古跡ハ南部ト津軽ノ界小湊ト云所ノ傍ニアリ海道ヨリ東南ノ方ヘ入コミタル所其跡ニツキト云木ノ檜ニ似テ大木一本アリシカ雷火ニテ焼タリトソ

一越前国孰賀ヨリ西北一里斗常宮参詣ノ道ニ縄間村ト云在此村ノ庄屋ヲ舟藤五郎多来ト云此家ハ実盛ノ生シ家本ナリトソ実盛カ遺物今ニアリトソ

一箒木ハ信州薗原村ニアリ木曽街道妻子ヨリ閑居ヘ入樵者ノ行通フ細路之蘭廣漸ナト、云所ヲ通テ箒谷ト云所アリ此木ヨリ箒木ヲ見ル也木曽峠ノテマヘ之此辺王平勝真平ナト少ミ平坦ノ地也此谷ヲ打越テ向ニモミノ木ノ高ク大ナル一本秀テ見ユ此木ノ左ノ方ニ木ノハ真丸ニ茂リタル木アリ是箒木也カク明白ニ見ユル物ノモ木ノ下ニ行テ見レハ影モナシトナリ此所ニアリトハ見ヘテアハヌト云也

国立国会図書館　三才雑録 特1000-3
ガラス使用

一高城ハ千葉ノ族ニテ平姓也下総国小金ニ住スト云今藤原トスル者甚誤ナリ高城下野守胤辰永禄八年丑二月十六日卒ノ傳照玄心

同下野守胤時天正十年午十二月十六日死関相玄酬

源次郎胤則天正十八年被召出慶長元年八月七日死底室源柏

清右衛重胤御目付七百石万治二年四月四死道照日観

一入梅の日数をしらう歌羅山の説のよし

五月てふ花より入てその年の元日にはよき干を入要

日の数ハ木七火十二土十四金八十五なり

二十一

五月の花始えらのよき干同しきはより

梅雨之

一延享元年江戸町数御改書上面

町数千六百七十二町

家数二十二万八千五百五十五軒

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3

ガラス使用

男女吉五十二万六千六百十二人
内男二十二万五千七百人
女三十万九百十二人

一俊明院　虞書皐陶謨夙夜浚明有
家

一孝恭院　商書大甲中曰奉先思孝
接下思恭

諸家異名者

南部　竹下太郎八左衛門
牧胜　入交弥六左衛門
鍋修　嬉胜白石社勘
弥二郎
水胜　大岡田村庄五郎
松平甲斐
穴山宮内兵衛

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

松平 ムツ
八幡男也
三分三不典膳
松平 下総
伊賀車戸二
一二三四又六郎
サツマ
八寸八分刑ア左衛
仁礼正膳右
谷谷谷谷
伝前
古屋家 頼
礼九郎太郎左衛

サカイウタ
七里鎌倉 幺斷
一石八斗 幺斷

後小松
應永八年二月廿八日内裏冬上同九十
一月十九日新造内裏
後花薗
嘉吉三九月廿三日内裏冬上
康正二七月廿日迁幸
後土御門
文明八十一月十三日冬上同十一十二月七日

国立国会図書館　三才雑録 特1000-3
ガラス使用

還幸

一 形及弩鎗に不酔法
半夏を粉にして脇へ入紙にて洗急
なる時用意なくハ鼻をさゝる くさめ
こしてよしと

護苑(花)関隨筆 尾張堀田紀方舊

一 多田兵部ゟ我府中に於る比人に口つ
ゝ傳へし由節會の文字くきり一條
禅閣の作へそて
せち恵文字くきり

異位 重 行 立 六 位
いいしきやうきやうのたろ ろくゐ
外記 進 庭 白 馬 奏
のけきのすゝむよはたくはのそう
取 二人 白
をとる時にはこんの大ねまいりけ
灰 風 前 版
ほのかなるひやうふのまへん
尋 常 宣 命 取
ハしんしやうせんこんしとりしる
庭 中 内 竪 舍
金はのうちちいさいはの大とき
人 臨 期 隨 縫 破
聖 こんこの召うしたてひぬぬひもの

国立国会図書館 三才雑録 特1000-3
ガラス使用

ゐくの樞(禄)こゝ(立)ゐるなりのうき(餝)太刀さし(差)
ひし(半)をたす(緒)(押)ハ笏紙つゝ(著)ゐるハ(靴)わてら(王)
きやく外弁ハ慈ぬるかかい(開)ゐん(門)圍司
のあらすなよ(世)よこのこめし(例)の國栖のこ(呼)
たたち(立)樂こゝハすこ(澄)のなれれ(例)い宣
余の作法こゝをそい(副位)の度なりハかいり(替)
川こつき(次)のふこ(舞)(踏)もめりれ せねねり(練)

ハかゝ(韓)ねり(練)めつし(珍)左ない(内膳)せん供まる
四種ひつ(鏎)ら(羅)いい(れ)ましら(れ)い西のらむ(欄)
むかひ(向)ハ兀子(ゴシ)の立ツ(ツ)ゐきやく(々)うき(兩儀)ハ砧
り金へん(版)ゐ(位)ゐき(佐記)をつゝろて(分)賜ふ
ヒ(殿)のゐり(弐ア)ついもの(兵ア)ゝ浦代(カメイ)のたあり(下)
名ハ内侍もて(持)さつ(板)くくら(藏)こゝ(人)ふ(扶持)
にしこ(隨)ぶふやや(漸)さし(拾)かさす(梓)扇の

国立国会図書館　三才雑録 特1000-3
ガラス使用

ひままつりしめはるみ御髪上御けつ
てきゑるきうこん近府ふみんしゆし
索餅又りつここの日の奏にあふらつ
枚えんもいたれぬハ出御まてろんハ
桃花一枚のあ梗あをちハ色もとく
ひなきさん三節ちとてはまいるみき
きこと俗い金銀けちめミ見ゆき雪を

廻の寸天て女められハ楽前立す進ミ
御酒ミき賜へとてめすち召勅使しきの式
筥物も玄はく机恵恵衣又もんけうさ
みとそ御装おひひつ蹕ゆし称るハ還御ハ
もも目録らしけん見さん系ちて下せせち節令恵
今とう末さらに不絶すへらきの御代
な代もかりし

慶長元和の比の京都りふき芝居の
番付

式三番　中村勘之丞
（あつま　金之丞　初し丞）
（十名兼　数名兼　源右衛）

提婆　瀬井小三郎
（中村大吉　大夫名兼　吉六）
（太郎名衛　彦三郎）

智略の花見小舞庄左衛
（吉弥　今次名衛）
（十名衛　左平次　源右衛）

牢人元原

踊　谷々

籠祇王　今村条之助
（非之丞　太郎名衛　十名衛）
（源右衛　左平次　源名衛）

奴子連六　猪多の庄左衛
（与次名へ　中大吉　勝之丞）
（源右衛　左名次　市左衛）

こんぎい　中村勘之丞

以上

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

一嫡母　父ノ妾ナレトモ子ヲ生テ正妻トナルモノナリ
一継母　父再娶シ正妻ナリ
一養母　己カ幼ヨリ外ノ家ニ養育セラレシモノ
一慈母　所生ノ母死後父別妾ヲシテ養育セシメタルモノ
一嫁母　己カ所生ノ母ナレトモ父死後他ヘ嫁シタルモノ
一出母　コレモ実母ナレトモ父コレヲ出シモノ
一庶母　吾実母ニ非レトモ父ノ妾ワカ兄弟ヲ生シモノ
一乳母　所生ノ母ニ代リ乳哺セシモノ

これを八母といふ父の正妻にして見て生せし階老（カイラウ）のものをいはし九母とも云へし八母皆恩あり故にもろこしにハ是ヲ為に服ヲ為す嫡母已下慈母ハ至りて皆三年嫁母庶母ハ一年乳母も又三月ノ服有也　邦にハ乳母ニ無服

○改音批　器破来離抱乃ひきれといふハ是歟

○尾府鎮を制する雅治に南方とも有使へ義教将軍富士御覧の時熱

田円福寺に御止宿ありし鎹くちけぬきを奉ひけれはなんなんとき鎹くと仰ありしよりそれ号とせしと塩尻にこへたり

○こんたんをゆて上るに梅干を入をけハ時をゆてのひあと又ありしめたゆてるゆも梅干ゆゑハ即時に和くゑ暮蕷とろしを熟くすゝり雷盆をすりしる鮮火よりけてあらしめれ莖よてそろしとりきませいきれば

○天明二年壬寅三月六日深川三井親和死

○同年五月日九皐滕知文死細井文三郎廣沢子

○同四年申辰五月二日萩原宗固貞辰死八十二自分書写數千巻

○守武の句

ちるむをなむあことふといふへかな

守武ハ伊勢内宮の神官荒木田氏連歌新撰筑波集ニモ入誹諧祖人天文十八年八月八日死七十七

辞世

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

ごしゝても又行末も神尾山之自の
玄風く
○古國司の年給料ハ山城国公廨稲凡
十五万束也
山城ゟ給六分稲五万束仆給四分稲三
万三千三百三十三束掾給三分稲一万六
千六百六十六束史生給一分稲八千三百
三十三束也
謂國准之国の大小上下ニ依て稲束差
別あり
田一町長三十歩廣十二歩稲米凡五百束之百町ニ

五百束然レハ国主給地ハ一百町なるへし
外位田と云抱八町外ゟつゝ是ハ上國の
守従五位下の積りし又職分田二町二反
仆已下も夫々ニ是在
○備前少将松平光政新左郎以咎字
為上意之熱光殿分国侍前国中
和国之風俄者天下之掟破却寺塔
僧俗及雑俄之由有其学不其端
見習及学其風ヲ学ハ親王門跡本
始諸人累代日本之風俗如何其上

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3

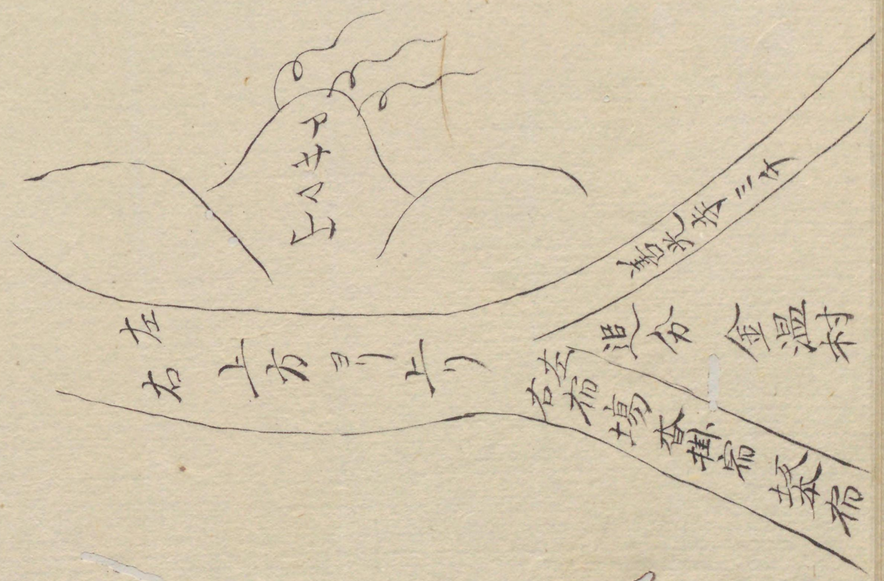
ガラス使用

多利支丹御制禁経。云何付ハ ケ様
之儀事對公儀甚不可然向後寺
社仕家万事ハ掟之通謹而可相守
全非恩意上意之趣ハ自今以後
猶相守事を上可為之退ハ
今津某
松平少將殿

○信州金沼村ニ二千石ハ小納戸伊丹
雅楽ノ知リ追分ノ方ヘ竪一里程幅

三十八間程地中より吹出し村数四十三
ケ村ニ相見ヘ不申ハ人馬数多所を以
出しハ穴ヲ今以焼出申ハ

[illegible]



国立国会図書館　三才雑録 特1000-3
ガラス使用

天明三年七月六日夕方ヨリ震動江戸
迄も空へ夜中砂フル
右之図ハ上州群馬郡南牧村小牧村
川浴村ニ右千百六十四石余之所右村之
近所ニ妻山ニ在之此老月中旬ヨリ浅間
山焼砌降此所尚月八日に右ニ妻山
也けか殿之石砂押出浅家三百六十
軒男子二百七十人女千百廿人牛馬
百七十疋利根川へ押流されホ久御
関所も押流中此

○天明三卯年七月信州ニ為城主諏訪
安藝ニ及長病ニ至ル臨居玄蕃此苦ニ
付先妾服男子軍に郎を廃之尚
妾服之二男ヲ嫡子ニ致存倉家中ニ
同意之由此処在所ニ老子葉兵庫
不許兼知想領ヲ相乾て後ニ中之ニ
依テ兵庫外之越後ニ家ニ至ル和
泉中付弥二男を嫡子ニ相立此評儀
相決此越兵庫承之ひそかに江戸へ
立越安藝ニ詠家松平和泉ニ入れ
戦右之越中連逗留所来之和泉ニ

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

ハ安藝ヲモ外親ナリ於ケ上軍ハ郎
ヲ嫡子ニ於ケ隱居家督ハ海右ニ一
件ナリ也同三日ニ家中大セハ仕至在之
之

天文 尚書注孔安国曰舜察天文齊
七政
弘治 北齊書曰祗菜宝命志弘治躰
永祿 群書治要云保世治家永全福
祿者也

元亀 毛詩曰憬我淮夷來献其琛
元亀象齒文賂南金
天正 文選曰高以下為基民以食為
天正
文祿 杜氏通典注凡京文武官毎歳
給祿
慶長 毛詩注疏曰文王德深厚福慶
延長
元和 唐憲宗之元号
寛永 毛詩朱氏注曰寛廣永長

国立国会図書館 三才雑録 特1000-3
ガラス使用

正保　尚書正義曰正保衡佐我烈祖格于
皇天
慶安　易曰乃終有慶安貞之吉
兼應　晋書曰夏商兼運周氏應期
明暦　漢書曰五紀明暦法
萬治　史記曰家民乃定万国為治
寛文　荀子曰文生民寛而安
延寶　隨書曰分四序綴三元延寶祚
　　渺無疆
天和　後漢書曰大人恢和万国咸寧

負享
元禄　易曰永貞吉王用享于帝
上　文選曰建立之勲応顕福禄之

一越智姓ハ物部ト同姓ニテ宇和麻治命ヨ
リ出ツ大小市命ハ成務朝ノ人也其子
小致命応神ノ御宇定賜小市国造
是今ノ伊与国越智郡也其子衆麻其
子三並文字ヲ越智ニ改ム
世ニ孝霊帝ノ末トゾモノハ其訛リ

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

一和田備後守三定高徳カ子太郎高秀
其子小二郎高家其子孫喜多土佐
守信徳其子左馬允久家其子八郎
和泉守能家其子太郎與家早世ニ
テ直家祖父ノ家ヲ継

一池田八紀姓ニシテ中納言長谷雄八代右
馬允奉改後鳥羽帝滝口ヨリ実ハ
淵仲カ子ナリ父奉負養子トス其子
奉光頼朝ニ仕治承五年三月池田
城ニテ為平家ニ討死ス年五十三其子

武者所奉永義久乱ニ功アリ其ヨリ
数代続テ庄三郎信輝ニ至ル
世ニ紀姓ヲ訛テ源姓トシ奉政ヲ奉
改ニ作ル

明和四年八月廿一日　浪人　荻井右門
獄門　日　山形大二
死罪　日　竹内正庵
遠嶋

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3

ガラス使用

同

中追放

隠居

家格貶サレ上ヤシキ召上

家督　領知替

同　八百七

宮沢准曹

桃井久馬

佐藤漁右夫

清水

山形一郎右衛門

織田美濃守

同役召放隠居　言家

織田対馬守

梅叟

追放

切腹

美乃守家来

吉田玄蕃

追放

月　津田彩母

月　開胜定鷹

月　杉原新吉夫

月　津田庄蔵

月　柘源四郎

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3

ガラス使用

追放

新井飛弾ヲ家来
市川清兵衛
池田日向ヲ家来
浪人 立木九郎兵衛
沢田
松平老にヲイシ
朝倉立庵

右ハ咎ニ付 作付

一 ヒルムシロ ヒルモ サヽモ氏云 田ノ中ニ生ス
甚タ繁茂ス腹痛ノ薬

一 ハ妻(ヲサイ) 平高時カ子亀壽カ乳母ノ名

一 和漢三才図会ニ奥ノ註ニ其子寸斗名
止古布志酉名布久多米

一 さがとのにのわりてこれをあめのしゝ
ともにはふりて今そとみ多る
延喜日本紀竟宴家原時平大鷦
鷯天皇を祈る之今に化徳天皇の所
とて民の竈いまきハひまりと云是を
あやまり来たり

一 園太暦 皇代暦 除目抄

国立国会図書館 三才雑録 特1000-3
ガラス使用

暦代最要抄　畧代抄
右太政大臣菅原公賢公著述也

一朝日将軍
木曽義仲をしと称するハ軍に任し
久しかしあして亡へりて栄花胡日の
久しかしさるを以人称せりと壺井氏
説也

一百千鳥　童蒙抄に夷ハもちくの鳥
のいとゝ鳴人又鶯を百舌鳥とも云ハひ
とつの名也とも云人

一かつミ　童蒙抄薦也

一水豹皮（アサラシノ）　安達緒千疋
右百練抄

一時服　類聚国史貞観十四年四月
丙戌〻〻賜二客徒一一ヲ

一ねりぬ
枕双紙　心ゆくものゝ
ゝるゆきゝ糸のねる合ぬりしゝる

一犬のとしおえ
同書犬のかち寿ゝよもしとおきのけ

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

いるまかくしくよくし

一用人　大平記三十九
是ニ増る所しあるまし

一獨楽（コマ）　同書同巻沐木入浴旺了し
廻しして拾ひ分童云々

一疱瘡　類聚国史仁壽三年諸國多患
此瘡天平九年及弘治五年甚熾而今
年又有此疫也

一源至　同書　右兵衛佐从五位下源朝臣
至為て訓使

一いしゆミ　同　貞規十一年十二月長門國
置弩師一矢

朗詠

嘉（商）辰（羽）令（イ商）月（ツ　ノ引）歡（徵商）
無（ク）極（リ）（ヤク切）
萬（ハン）歳（ゼイ）千（ウ切）秋（ウ切）楽（ヨウ）未（商）
央（ヨウ）引

和歌披講

国立国会図書館　三才雑録 特1000-3

ガラス使用

一朝夕（チヤウジヤク）　太平記第二ゐ明詠所事条云ーー
雑色左右ニ立並てここ按今の公人
朝夕人といふこのこれらの事ゑや

一今公法ニ仕官のものの十七戈已上をとる事
源平相語平家ついこうの軍兵今度上
洛の時のまゝて殿の御所にて評定ゑ十
五六ハおさなし十七以上上洛ゑへしと
定めしれしうけるに小次郎ハ十六也
ありのましにかしてハ所見あらし十七
かと名のりてハ人の供せんと思ひけれハ
十七とやて西国まて見しうりけれとも
云ゝ

一郡名　河川の字通用ゑ
陸奥白河郡式和名拾芥ミな河ニ作ル
節用川ニ作ル
万葉　吉野河　明日香河　川余騰
これ一その中に河川通用より
奥ノ衣川ヲ東鑑作衣河

東涯
勢遊志一　輶軒小録一
井沢長秀
肥後志

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

林道春

土佐日記附注　壬子社縁起一
禁中故事一　神書私考一
筑波山縁起　寺社證文二
河越天神縁記一　倭雅一
二十一代和歌集年月考一
續日本紀抄　神祇傳記廿
夕顔巷夜話十二
春齋
両朝時令三

細井廣沢

山陵記　君まく一
千葉芸閣
年中吉事鑑一
大高季明妻
つしまき
貝原篤信
和学一歩　神祇訓
中納言宗武卿
古事記詳説五　服色管見十一

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

樂曲考 五十六
同叢說十
三条家裝束抄注一
得所集一
軍器摘要一
つれ〳〵評一
中村惕齋
本朝学制考一
中山三柳
あすゝ川 三

玉函秘抄一
小倉百首童蒙訓五
采雅五
伊物注四
芳蘭集一

海北若仲
和訓類林
熊沢了海
宇佐問答
富士谷成章
りさし抄
後愛梨春
春秋七草一
白石
南北倭志

あゆひ抄

国立国会図書館　三才雑録 特1000-3
ガラス使用

青水敦
艸蘆雜譚四
昆阳漫録

經濟纂要十
奉使小録

寛政九巳年十二月朔日　林大学頭

聖堂ハ事法之儀ヲ立ヽ越入
御聽重ヽ出之次第ニ思召ハ其越之儀
猶追ヽ其計之儀可ヲ上ハ依之内殿
之通聖堂料千石并百三十人扶持

是ニ千方ヲ取録之内ハ録ハ分ニ差
上聖堂之ハ入用ニ而其用ハ千方儀ヲ
是ニ之通三千石之高ニ成下ハ依之
千石百俵ハ御蔵米ニ而其下ハ格式之儀
ヲ以小性組番頭次ハ可ニ取扱ハ

御年男ニ取下物

一御鏡餅　二飾
一昆布　一扣
一塩鯛　一扣

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

一 懸鯛　一杯
一 蕨樽　一荷
一 白樽　一荷
一 魚目　武貫よ
一 淺黄露亀椀
五ツ組本椀を具 蝶足膳一膳
二ノ椀二組腰高二ツ
外淺黄椀一具塗杯数を膳腰高
二ツ魚目三百文右菓履ニ於下
一 串柳　一杯
右之通ニ於座ニ

寛永十戊午年六月二日
芝浦沖逸に
御成に於筋并に船餝左之通
大手に於つ分酒井雅楽殿屋数子
者盤橋に門外右に一石橋御召場分
に舟ニ於為　召日本橋豊海橋殿
木丸大手番所ニ大川通霊岸島向
井殿監屋数ニ分天地丸に船ニ於為
召舟演に屋数ニ通芝浦沖に不
船　還御元之に舟路向井殿監番

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

一所書之 小川の座再に就ける 召都日本
橋川筋一石橋かゝる事 上夫かの成ハ
之通
天地丸の餝付
金扇之印 壹本
是も五本骨ニ而の珠之時之の写
印也
朱葵の紋
白地之の吹流 弐本
白地朱葵の紋
四半幟 壹本

白地朱葵の紋幟 弐本
紫地白むき字
四半幟 壹本
熱金三ツ挑燈 壹本
白地ニ朱之丸小幟 朝合廿壹本
白地朱之横筋幟
御弓 廿張
の鉄炮 三十挺
玉薬矢箱共
御左右ニ

国立国会図書館 三才雑録 特1000-3
ガラス使用

紫地白葵の役付の幕張有之片側
の紋七ツ付
但の紋大キサ九尺余有之由
御船蔵かの柴船和川沖筋ゟ夫か
元之の舟筋の漂居の座

一上野玉新田新世良田庄曹ホと住
僧廣海僧正か古キ新田系圖一
巻アリ世ニ行ヲ不の系圖ニ同し
かしは我ハ家姓の事あるも見へし

かハ重之写は世ニ行ルヽ取ノ系圖ハ心
ハスリアリ又近頃夜ヨリ来いらせら
れしの消息の中ニも系圖ノヿニ及
ハレシ不某かや不と合ヿアリシ右系
写して来りしり
右ハ宝永六年六月ノヿナリ
折角ノ栄ニ於
海部郡孫守百姓ハ之知郡栄木村内
彦ナ巣と申ス八右衛門娘屋よ事
寛政十午年二拾貳才ニ於成ヲ申

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

国立国会図書館　三才雑録 特1000-3

ガラス使用

右三才雜録若干卷一名竹叢隨筆家父高尚一生之筆記也經年虫損失卷目之處亦多今以闇推定卷目大抵如右子孫弥可秘藏者也

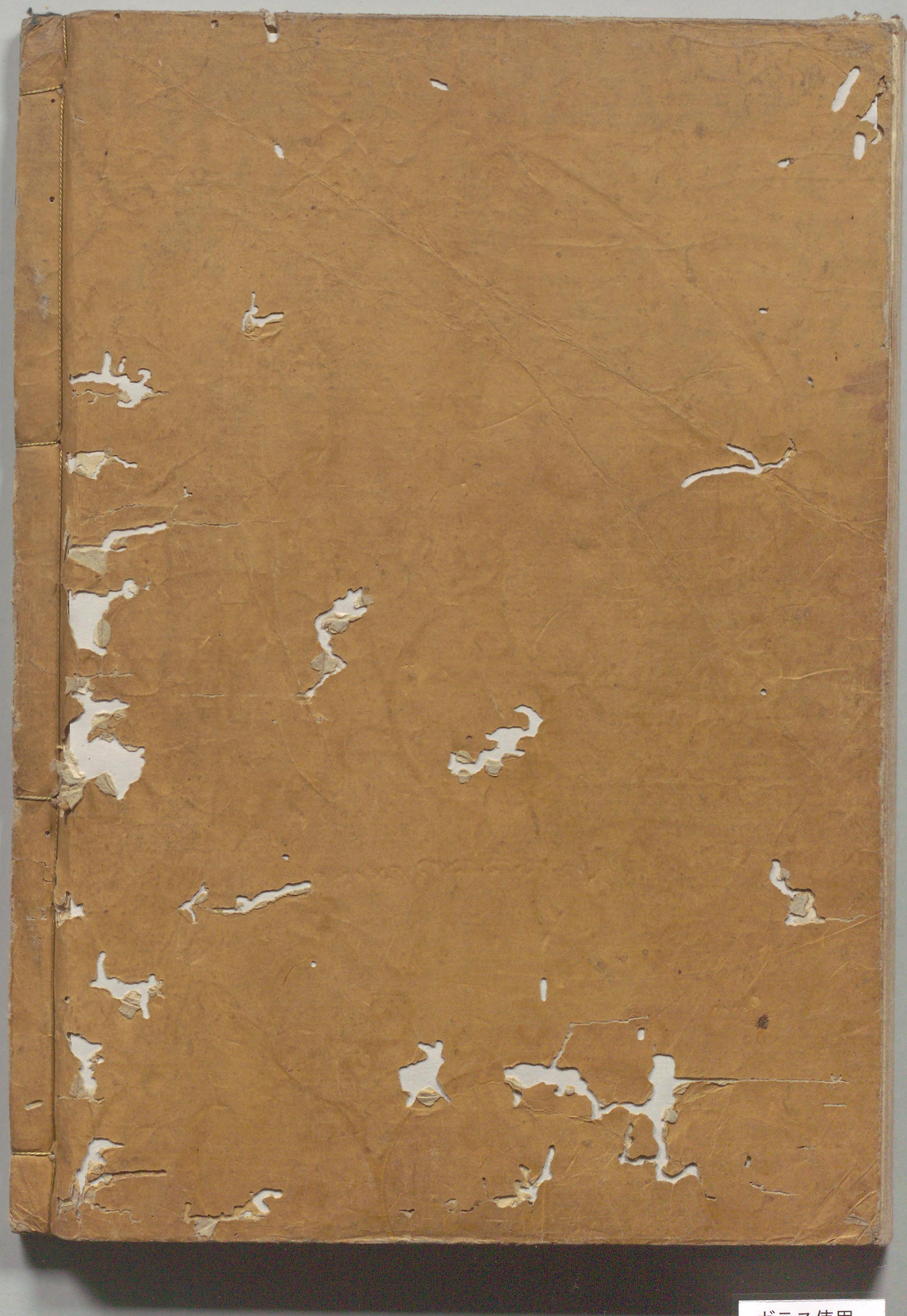
七十二翁高潔謹書

文政七甲申年十月十有八日寫功畢

越智直澄

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3

ガラス使用



国立国会図書館　三才雑録 特1000-3

ガラス使用